



飲食提供に係る基本戦略の策定について

オリンピック・パラリンピック競技大会における飲食提供

飲食の提供場所と主な提供対象

オリンピック・パラリンピックのために設定されたセキュリティラインの内側が組織委員会が管理する飲食サービスの対象となる。

- 各競技会場
⇒選手及び選手団、各競技連盟、VIP、観客、スタッフ
- 選手村
⇒選手及び選手団
- メインメディアセンター
⇒各国メディア
- ホスピタリティセンター
⇒スポンサー、スポンサーゲスト、IOC 等

(参考) 過去大会での飲食の提供食数

- 大会全体で約1,500万食以上
- 選手村では約200万食
* 選手村のピーク時には30分で1万食

(大会後に関係者から聞き取り：ロンドン大会)

提供メニュー

- 選手に対する栄養面での配慮
- 食品の安全衛生面での配慮
- 提供する食品の主要成分（アレルギー）等を英語、仏語、開催国語にて表示
- 開催国の伝統料理に限らず、西欧料理、アジア料理、アフリカ料理等のメニューの提供
- 様々な宗教的慣習、食習慣への対応が必要。
：イスラム教（ハラール）、ユダヤ教（コーシャ）、ビーガン（ベジタリアン）等
- 食材調達にあたっては、持続可能性への配慮やドーピングコントロールに対する影響の考慮等が必要。
- 飲食の提供は、食材の調達を含みケータリング事業者が行う。

(参考) 過去大会での提供メニュー

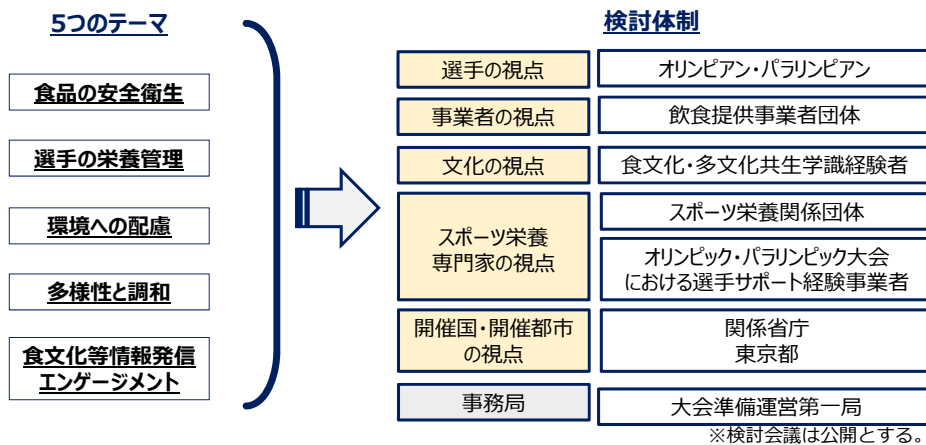
- 以下の6つのゾーンでメニューを提供
 - ① ブラジル料理
 - ② ワールドフレイバー
 - ③ アジア・インド
 - ④ ハラール
 - ⑤ ピザ・パスタ
 - ⑥ サラダ・デザート
- ※ 全区分について、8日間のローテーションで多様なメニューを提供
- 持続可能性に配慮した食材調達基準を設定（リオ大会）

飲食提供に係る基本戦略とは

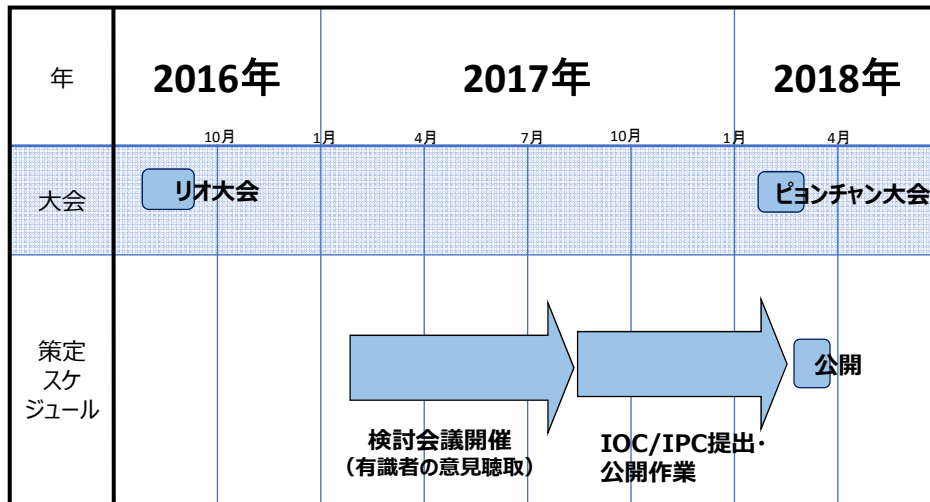
- 大会における飲食提供に関する基本的な考え方を示す文書であり、情報発信や関係者のエンゲージメントのツールとなる文書である。
- ロンドン大会で初めて策定・公表（大会30か月前）され、
リオ大会でも策定・公表（大会22か月前）
※各大会ともに、外部の有識者の意見を聞きながら策定
- 主な記載内容（過去大会での記載内容）
下記の事項について、基本的な考え方を記載する
 - ①ビジョン
 - ②運営方針（食品の安全衛生など）
 - ③食事の提供内容
提供対象者、提供する場所、メニュー（地域性や宗教的側面などを含む）
 - ④持続可能性への配慮
環境管理（輸送、廃棄含む）
調達コードに基づく食材活用（開催国・地域の食材の活用含む）
 - ⑤関係者の特定（スポンサー、事業者、行政機関など）

飲食提供基本戦略の主な検討テーマ及び検討体制

- 基本戦略の策定に当たっては、検討会議を開催し、飲食提供に係る重要なテーマごとに検討。
- テーマは過去大会における飲食提供に係る配慮事項や東京2020大会ビジョンを踏まえて設定。
- GAP等の認証を位置付けた調達コード（検討中）に基づく国産食材の活用、日本食の提供についても検討。
- 検討会議のメンバーは、検討テーマに応じた各分野の外部有識者で構成する予定。



飲食提供基本戦略の策定スケジュール（予定）





聖火リレーについて

聖火リレー検討委員会の設置報告

1 設置目的

組織委員会が東京2020オリンピック・パラリンピックの聖火リレーを検討するにあたり、幅広い助言を得るために設置する。

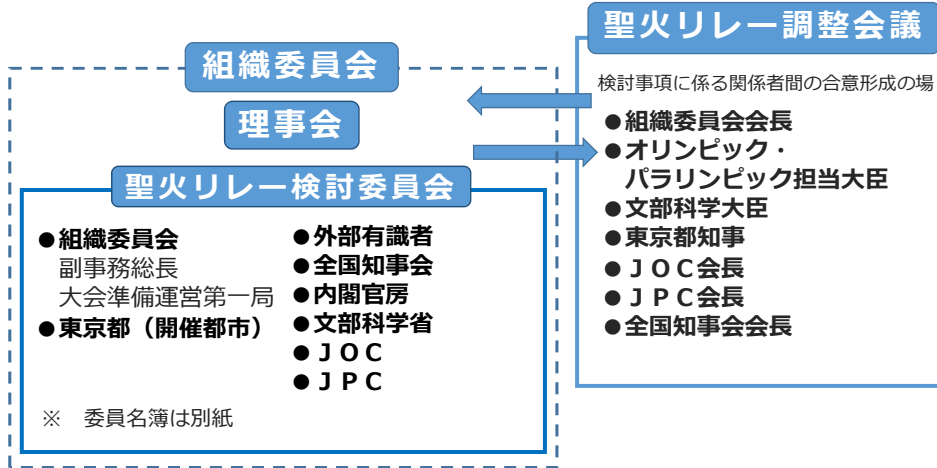
2 検討内容

- ① オリンピック・パラリンピック聖火リレーのコンセプト
- ② 聖火リレールート策定における基本方針
- ③ その他聖火リレーに関する重要なこと

3 今後の予定

- 2月末から、1～2カ月に1回開催予定。
- 8月頃を目途にオリンピック聖火リレーコンセプトをIOCへ、2018年2月頃を目途にパラリンピック聖火リレーコンセプトをIPCへ提出する。

(参考) 聖火リレー検討体制



※ 詳細については、地方公共団体の協力を得て、検討・実施していくことを想定。

聖火リレー検討委員会 委員名簿

別紙

役職	氏名	所属等
委員長	ぬのむら ゆきひこ 布村 幸彦	東京 2020 組織委員会 COO
委員	いしだ たかひさ 石田 高久	内閣官房 東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会 推進本部事務局 セキュリティ推進統括官
	いずみ びんこ 泉 ヒン子	女優／東京 2020 組織委員会顧問
	いのうえ けいじ 井上 恵嗣	東京 2020 組織委員会 大会準備運営第一局長
	うえじ じょうたろう 上治 丈太郎	公益財団法人日本オリンピック委員会国際専門部会員 ／東京 2020 組織委員会参与
	かがみ としお 加賀見 俊夫	株式会社オリエンタルランド 代表取締役会長(兼)CEO ／東京 2020 組織委員会参与
	かわい じゅんいち 河合 純一	パラリンピアン／一般社団法人日本パラリンピアンズ協会会長 ／東京 2020 組織委員会 アスリート委員会副委員長
	しおみ きよひと 塩見 清仁	東京都オリンピック・パラリンピック準備局長／東京 2020 組織委員会理事
	しまづ あきら 嶋津 昭	公益財団法人ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会 事務総長 ／元総務省事務次官
	たかはし ひでふみ 高橋 秀文	日本パラリンピック委員会副委員長 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会常務理事
	たかはし みちやす 高橋 道和	スポーツ庁次長
	たけだ みほ 武田 美保	オリンピック／スポーツ・教育コメンテーター／東京 2020 組織委員会顧問
	ただ けんいちろう 多田 健一郎	内閣官房 東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会 推進本部事務局 企画・推進統括官
	はやし まりこ 林 真理子	作家／東京 2020 組織委員会参与
	ひらおか えいすけ 平岡 英介	公益財団法人日本オリンピック委員会専務理事／東京 2020 組織委員会理事
	ふじさわ れつ 藤沢 烈	一般社団法人 RCF 代表理事
ふるおや みつお 古尾谷 光男	全国知事会 事務総長	
もたに こうすけ 藻谷 浩介	株式会社日本総合研究所調査部 主席研究員	

(平成 29 年 2 月 1 日時点)

(五十音順、敬称略)



開閉会式の検討について

<式典委員会について>

1 設置目的

理事会の決定に先立ち、東京2020大会の開閉会式での演出に関する基本的な方針の検討や、総合監督など演出に関わる者の選定などの制作体制の検討を行う。

2 検討・助言内容

- ①開閉会式における演出に関する基本的な方針・方向性の検討
- ②総合監督など演出に関わる者の選定
- ③制作体制（制作会社等）の選定に関する助言
- ④その他開閉会式に関わる事に対する助言

※原則①～③までの役割。④は必要に応じて事務局が招集。

※具体的演出案の検討は行わない。

3 構成

開閉会式に関連が深い分野（アスリート、文化・社会、歴史など）の方々から構成を予定。

4 設置時期

2017年春頃

東京2020大会における開閉会式実施までのスケジュール

式典委員会の設立【2017年春頃】



基本方針の検討【2017年春頃～2017年末頃】



制作体制の決定

演出に関わる者の選定などの制作体制の決定



制作・準備



大会本番



マスコット選考検討会議について

<マスコット選考検討会議について>

■報告事項

- ・マスコット選考検討委員会の委員メンバーが決定。
- ・今後の進行について
(1月17日(火)に第1回・1月27日(金)に第2回会議を実施。)

<マスコット選考検討委員会メンバー>

以下の14名の委員メンバーで構成。

(座長) 宮田 亮平	文化庁長官
(副座長) 生駒 芳子	ファッション・ジャーナリスト/アート・プロデューサー
あんびる やすこ	絵本作家/一般社団法人日本児童出版美術家連盟 理事 /一般社団法人日本美術著作権連合 副理事長
石井 リーサ 明理	照明デザイナー
石川 和子	一般社団法人日本動画協会 理事長
垣内 俊哉	株式会社ミライロ 代表取締役社長
官浪 辰夫	デザインコンサルタント
杉山 愛	スポーツコメンテーター/元プロテニスプレーヤー
田口 亜希	パラリンピック射撃日本代表/一般社団法人パラリンピアンズ協会理事
中川 翔子	歌手/タレント
夏野 剛	慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 特別招聘教授
林 いづみ	弁護士/桜坂法律事務所パートナー/中央大学法科大学院客員教授
日野 晃博	株式会社レベルファイブ 代表取締役社長/CEO
陸川 和男	株式会社キャラクター・データバンク代表取締役社長 /一般社団法人キャラクターブランド・ライセンス協会 理事

※「ブランドアドバイザー会議」メンバーに加えて、マスコット（キャラクター作成）や応募要件、著作権、商標権に精通している専門家、国民の注目・支持を集めるメンバーが就任。

<今後の進行について>

- ・ 1/17(火)の13時半～、第1回選考検討会議が開催され、委員メンバーの紹介と選考検討会議で決めていくべきこと（①「どう募集するのか(応募要項)」②「どう選ぶのか(審査方法)」）のブリーフィングが行われた。
- ・ 第2回会議以降、具体的な議題について議論が行われる。（第2回会議では応募の間口についての議論が行われた。）次回、第3回会議は、2/6(月)の9時半～実施。
- ・ 計6回程度の議論を重ねて、2017年3月末にIOC/IPICに「選考方法」を提出し承認を仰ぐスケジュールで進行。

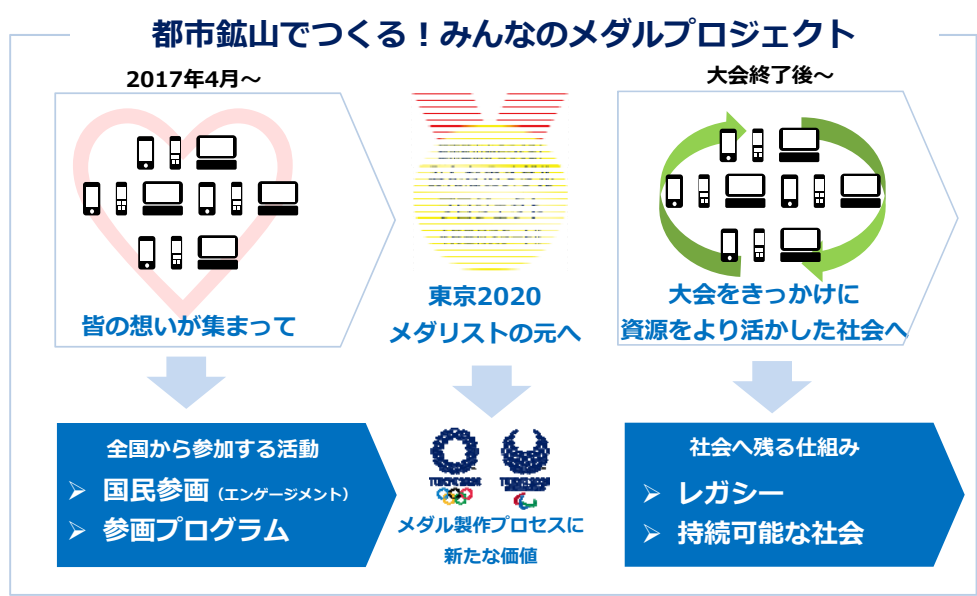


「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」 事業協力者の選考と今後のプロセスについて

1. プロジェクト全体像
2. 事業協力者審査
3. 事業協力者
4. プロジェクトの開始
5. メダリストコメント
(参考資料)

プロジェクト全体像

東京2020が取り組む様々なプログラムと連携し、大会の開催意義をさらに高める活動



事業協力者審査について

メダルは大会の象徴であり、公平かつ透明なプロセスとする観点から、企画提案を公募。

【国民参画の観点】【確実な原材料供給の観点】【持続可能性・レガシーの観点】を中心に環境分野や製造分野、法律分野等の外部審査員と、内部関係部局の責任者による審査委員会に置いて審査を行い、2ヵ月半を有して事業協力者を選定。

【審査のスケジュール】

11月16日（水）応募要項の公示
11月25日（金）説明会の実施
11月28日（月）希望申請の締め切り
12月19日（月）企画提案書の提出締切
12月19日（月）
～22日（木）書類審査
（2017年）
1月13日（金）第1回 審査会
1月27日（金）第2回 審査会

【審査員メンバー】

- 崎田裕子 ジャーナリスト・環境カウンセラー
（東京2020街づくり・持続可能性委員）
- 谷本歩実 オリンピアン（柔道）
（金メダリスト、東京2020理事）
- 古澤静司 造幣局理事
- 清水隆 日本鋳業協会理事
- 内藤丈嗣 弁護士
- 岡崎義隆 東京都オリパラ準備局次長
（加えて、東京2020より国際渉外局長、
企画財務局長、大会準備第一局長が内部審査員
として参加）

2

事業協力者

主に下記3つの観点から、2社を事業協力者代表として選定

- 全国からの幅広い参画を実現
- 確実な原材料供給と高いリサイクル技術
- 低コストでの調達

携帯電話事業者を通じた回収

事業協力者（代表社） **株式会社 NTTドコモ**

全国の皆さまの使用済み携帯電話等を、2001年以来取り組んできたモバイル・リサイクル・ネットワークの枠組み、及び廃棄物処理法の広域認定等を受けた同社のリサイクルプロセスを活用し、全国約2,400のドコモショップ等を通じて回収する。



自治体を通じた回収

事業協力者（代表社） **一般財団法人 日本環境衛生センター**

家庭に眠っている小型家電を、全国の認定事業者（2/1時点33社）の協力を得つつ、全国の自治体等を通じて、小型家電リサイクル法に基づき回収する。

※回収実施自治体・回収品目は今後調整

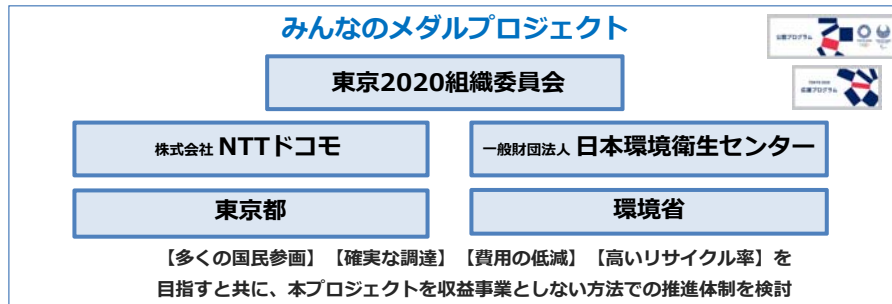
3

プロジェクトの開始について

メダル製造に関して東京2020が初となる3つのポイント

- 参画 : 国民が参加してメダル製作を行うプロジェクトを立案
- 環境 : メダル製造に必要な全ての金属量を都市鉱山から賄う
- テクノロジー : "金"の調達においては、リサイクル率100%を目指す

本プロジェクトを『東京2020参画プログラム』として全国で展開していくことを目指す。



2017年4月頃からの回収開始を目指す。(必要量が集まり次第、終了予定)

4

メダリストからのコメント

Eaton

An Olympic medal is one of the most coveted items in existence. People spend decades, often agonizing ones, working to obtain one. The life stories of so many are defined by the pursuit of these metal medallions, and those same stories are what inspire and bring millions of us together.

And now, thanks to the Tokyo 2020 Olympic Medal Project not only do the athletes inspire with their stories, but each medal itself has a story of its own! The best part is that each citizen has a chance to contribute to the story, to raise awareness about a sustainable future and to make a unique contribution. And, most excitingly, they have a chance to be part of the Olympic journey.

The weight of a medal around your neck is always a good weight. And when an athlete at Tokyo wins a medal, the weight of it will not be from the gold, silver, or bronze; it will be the weight of a nation. The awesomeness of this project makes me want to come out of retirement and compete for one.

I have always been a fan of people who do things differently; of those who try to move the needle in a positive way. I am a fan of Tokyo 2020.

Ashton Eaton

陸上競技10種 メダリスト「アシュトン・イートン」さん(アメリカ)

ロンドン2012大会 金メダル
リオデジャネイロ2016大会 金メダル

(和訳)

オリンピックのメダルは、この世に存在する物の中で人々に最も切望されるものの一つです。人々は長きにわたり、しばしば苦勞しながら、これを手にするために懸命に努力します。多くのアスリートにとって、オリンピックのメダルを追求することは人生そのものであり、またそれぞれの人生のストーリーがアスリート同士を奮い立たせ、結束させもします。

そして今、東京2020メダルプロジェクトによって、アスリートが感動のストーリーを伝えるだけでなく、一つ一つのメダルそのものにストーリーが生まれるのです！このプロジェクトの一番素晴らしいところは、国民のみなさんがメダルのストーリーの一部になる機会を得られ、持続可能な未来についての認識を高め、そして新しい方法で貢献をすることができることです。誰もが「オリンピックの旅」に参加できるチャンスがあるということは、非常にエキサイティングなことです。

首にかけられたメダルの重みは、いつでもずしりと感じるものです。東京2020大会のメダリストは、金、銀、銅といった金属の重さだけではなく、国ひとつ分の重みを感じるようになるでしょう。本当に素晴らしいプロジェクトです。私も引退生活を終わらせ、また選手として参加したいとさえ思います。

私はいつでも、何か今までとは違うことをする人たち、ポジティブな方向へ針を動かす人たちのファンです。そして私は東京2020のファンです。

アシュトン・イートン

メダリストからのコメント

体操競技 メダリスト内村航平選手

北京2008大会 団体総合銀／個人総合銀
 ロンドン2012大会 団体総合銀／個人総合金／ゆか銀
 リオデジャネイロ2016大会 団体総合金／個人総合金

今では便利にスマートフォンやパソコンを使っていますが、進歩する度に使えなくなって廃棄するだけではもったいないと思います。体操の技術も昔からの選手たちの取り組みがあって今につながっています。

今回の取り組みは、これまで利用してきた価値や思いをメダルに込めるわけですし、将来に大切なメッセージを伝えるプロジェクトになると思います。

ウィルチェアーラグビー メダリスト池崎大輔選手

リオデジャネイロ2016大会 ウィルチェアーラグビー銅

パラアスリートはパラリンピックの頂点を目指し、また、メダル獲得に向けての日々を過ごしています。僕らのメダルは、たくさんの人の支えや応援と自分以外の思いと共に戦って獲得できたメダルだと思っています。だからこそ価値があり嬉しい思いのこもった特別な価値のある物です。応援してくれた方々へメダルの報告をして、首にかけた時の笑顔や、普及活動でメダルを目にした子供達の喜ぶ姿を見た時は、メダルを取ったという実感がわきます。そして、メダルは夢や希望とパラスポーツの未来に繋がるものです。

今回のプロジェクトによってメダルが完成すれば、今まで以上に思いが入ったものになると思います。2020東京オリンピック・パラリンピックのメダルは日本国民みんなで作り上げるという素晴らしい取り組みだと思いますし、メダルを目指す為のモチベーションにも繋がります。

水泳競技 メダリスト松田丈志さん

北京2008大会 200mバタフライ銅
 ロンドン2012大会 200mバタフライ銅／400mメドレーリレー銀
 リオデジャネイロ2016大会 800mフリースタイル銅

メダルをもらう瞬間は、長い時間をかけて作り上げてきた「技術」「体力」そして「思い」が形になる瞬間です。さらにそれを見て自分の事の様に喜んでくれる人々や、メダルを触って喜ぶ子供達の笑顔にふれるたびに、頑張ってきた良かったと思えるものです。

モノが溢れている現代で、都市鉱山を国民から集め、アスリートの努力の結晶とも言えるメダルを作成することは、オリンピック・パラリンピック開催国として、環境への配慮、国民の積極的な参加を促す意味でも大変良い形だと思います。

誰もが一度は手に触れてみたいと思うメダルを、このような形で作成することは、国民の環境への意識を高めていく取り組みにも繋がります。その意識は東京2020大会後も残っていくと思います。

TOKYO 2020 6

(参考)メダル制作に必要な要件

最低限必要な原材料(オリンピック・パラリンピック合算)

メダルの種類	製造個数	金	銀	銅	亜鉛	錫	合計
金メダル	1,666	9,996	616,420	39,984	0	0	666,400
銀メダル	1,666	0	616,420	49,980	0	0	666,400
銅メダル	1,666	0	0	646,408	16,660	3,332	666,400
金属量合計(g)		9,996	1,232,840	736,372	16,660	3,332	1,999,200

※東京2020大会におけるメダル数はオリンピック・パラリンピック合計5,000個を想定。

※上記のメダルの重さ・金属組成は、ロンドン大会のメダル(1個400g)のもの。(リオ大会のメダルは1個500g)

※上記の金属量は、製造時の歩留まりを考慮していない。製造工程で発生する材料ロスを考慮する必要がある。(報道によるとロンドン大会では4倍にあたる計8tの原材料が必要だった)。

※金メダルは、周りを金張り(またはメッキ)処理したものであり、銀が主な金属組成である。

過去大会を参考にするとオリンピック・パラリンピック合計約5,000個のメダルの総重量は、

最低限金10kg+銀1230kg+銅736kg合計約2トンとなり、

これを製造するために工程の材料ロスを想定すると**4倍の約8トン集める**ことが必要

TOKYO 2020 7

(参考)都市鉱山について

【都市鉱山の現状】

○最近の推計

✓金と銀は、地下に埋蔵しているもの(地下資源)が3割に対し、既に掘削され地上に出ているもの(地上資源)が7割となっており、持続可能な社会を築いていくためには、都市鉱山と呼ばれる地上資源の活用が必須とされている。

○都市鉱山活用への動きが世界的に拡大の傾向

✓特に、都市鉱山の代表例である携帯電話は、金の含有率が金鉱山の68倍、銀の含有率が銀鉱山の6倍であり、極めて有効な資源として世界的にその活用が注目されている。

【世界的動き】

○資源管理に関して世界的な関心の向上

- ✓昨年12月国連総会 持続可能な開発目標(SDGs)が採択
- ✓伊勢志摩サミット首脳宣言「富山物質循環フレームワーク」への支持

【国内の状況とプロジェクトの意義・レガシー】

○国内に眠る有用資源のリサイクルが推進されるレガシー

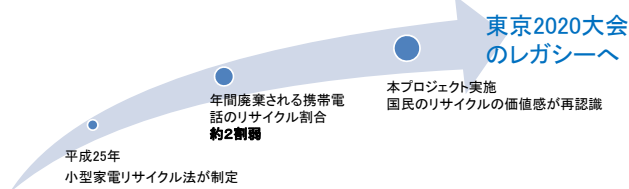


図: 主な金属の地上資源と地下資源の割合について



表: 都市鉱山と鉱山における金銀の含有率の差

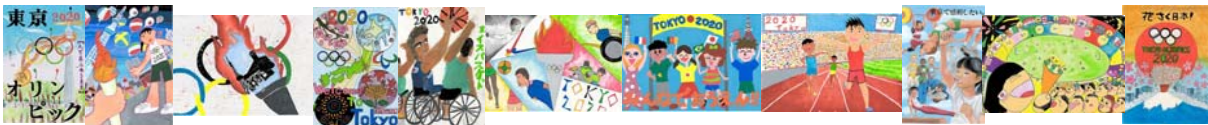
品種	含有率	1トンあたりの含有量
金鉱山	5ppm	5g
携帯電話	340ppm	340g
銀鉱山	250ppm	250g
携帯電話	1400ppm	1400g

資料: 各公表データ等を基に作成



東京2020参画プログラム（オールジャパン） 2020年東京大会に向けた小中学生からのポスター募集結果について

【東京2020参画プログラム（オールジャパン）】 2020年東京大会に向けた小中学生からのポスター募集結果について



全国の小中学生の2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に対する興味喚起及び参加への意識付けを目的として、2020年東京大会をテーマとしたポスターを、各都道府県の教育委員会等を経由して全国の小中学校等から募集した。

<p>募集期間 平成28年7月25日～11月30日</p>	<p>実施内容 小中学校の今年の夏休みの課題(または通常の授業)として、以下のテーマで、画用紙に描いてもらった。なお、組織委員会への送付作品は各学校の代表作品とした(学校毎に50枚につき1枚)。</p> <p>①リオ オリンピック・パラリンピック大会で心に残ったこと ②東京大会に期待すること</p>
<p>募集対象 小学5年生、中学2年生、特別支援学校の小学部5年・ 中学部2年 ※海外日本人学校含む</p>	

募集状況(現在集計中)

- 総数 応募数:26,292点(昨年比+117%増)、代表作品:1,205点

参考(昨年度結果)

- 総数 応募数:12,071点

【東京2020参画プログラム（オールジャパン）】
2020年東京大会に向けた小中学生からのポスター募集結果について



・全国からの募集状況

	応募数	代表作品数		応募数	代表作品数
北海道・東北ブロック (北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県)	1,234	94	近畿ブロック (滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)	3,853	135
首都圏ブロック (茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県)	7,473	440	中国ブロック (鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県)	1,596	61
東京都	5,264	179	四国ブロック (徳島県、香川県、愛媛県、高知県)	544	22
北信越ブロック (新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県)	1,256	43	九州・沖縄ブロック (福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県)	1,936	70
東海ブロック (岐阜県、静岡県、愛知県、三重県)	2,801	135	海外	335	26
			合計	26,292	1,205

TOKYO 2020

【東京2020参画プログラム（オールジャパン）】
2020年東京大会に向けた小中学生からのポスター募集結果について



1. 今後の予定

代表作品から複数作品を選出し、3月中旬目処に表彰を実施する予定

2. 作品の活用

(1) 組織委員会での活用

- ①組織委員会ホームページへの掲出
- ②映像コンテンツの製作
- ③各種イベントでの掲示
- ④組織委員会内での掲示
- ⑤フラッグツアーとの連携
- ⑥パートナー企業との連携

(2) 自治体等での活用

- ①自治体主催イベントでの掲示
- ②自治体広報等での活用
- ③学校主催イベントでの掲示

組織委員会HP



自治体での活用(宮城県)



学校での取組の様子



自治体での活用(東京都)



TOKYO 2020

【東京2020参画プログラム（オールジャパン）】
2020年東京大会に向けた小中学生からのポスター募集結果について
（参考）昨年度の活用事例



募集結果

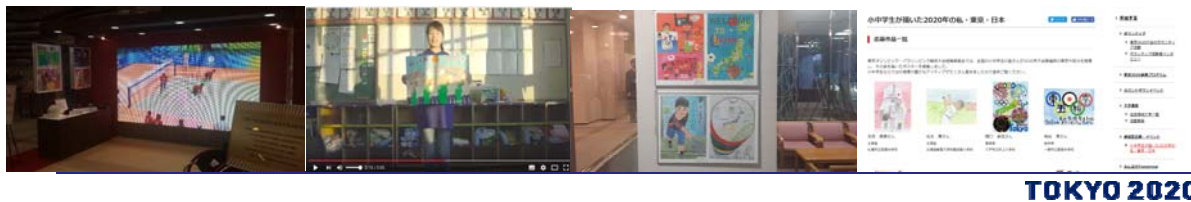
総数（うち、海外） 応募数：12,071点（822点） 学校数：676校（57校）

＜組織委員会での活用＞

- ・ 組織委員会ホームページへの掲出：代表作品全作品を組織委員会ホームページに公開
- ・ 映像コンテンツの製作：組織委員会ホームページにてポスターに関する映像作品を公開
- ・ 組織委員会内での掲示：9階会議室前に展示

＜自治体等での活用＞

- ・ 自治体主催イベントでの掲示：東京都内の施設内での展示や駅伝大会等各種イベントで展示。東京都以外でも、会場関連自治体や長野県、被災3県でのイベント等で展示。
- ・ 調布市では各学校のオリパラ教育を紹介するブローチャー誌に使用。



東京2020ライセンスプログラム資料

1

東京2020ライセンス

	企業名	契約カテゴリー
商品ライセンス		
1	アシックスジャパン株式会社	スポーツ用品
2	株式会社マッス	公式オリジナル商品(Tシャツ、タオル、ピンバッジ、キーホルダー、クリアファイル、他)
3	株式会社ギャンビット	JOC公式ライセンス商品/JPC公式ライセンス商品(キャラクターデザインシリーズ)
4	株式会社ゼンリン	会場マップ
5	株式会社ポニーキャニオン	サッカー日本代表DVD(リオ 2016 アジア予選激闘録)
6	ブリヂストンスポーツ株式会社	ゴルフボール
7	株式会社電通テック	偽造防止用ステッカー、商品タグ、他
8	丸真株式会社	タオル
9	株式会社ステーツ	ピンバッジ
10	株式会社ソニア	ピンバッジ
東京 2020 オフィシャルショップライセンス		
11	株式会社電通	東京 2020 オフィシャルオンラインショップ
12	東京急行電鉄株式会社	東京 2020 オフィシャルショップ 渋谷
13	東急不動産株式会社	東京 2020 オフィシャルショップ 銀座
特別プログラムライセンス		
14	日本郵便株式会社	リオ 2016 日本代表選手団記念切手
15	全国自治宝くじ事務協議会	東京 2020 大会協賛くじ
16	独立行政法人造幣局	東京 2020 記念貨幣
17	一般社団法人全国自動車標板協議会	東京 2020 特別仕様ナンバープレート

2

東京2020公式ライセンス商品



3

東京2020ライセンスングプログラムの具体的な施策

従来のような受動的なライセンスングプログラムではなく、**下記3つの施策**を能動的に展開することで「ロイヤルティ収入の最大化」、そして「オリンピックパラリンピックムーブメントの推進」を図ります。

